



平成 27 年 10 月 23 日

各位

会社名 株式会社ディー・ディー・エス
代表者 代表取締役社長 三吉野 健滋
(東証マザーズ・コード番号 3782)
問合せ先 取締役管理担当 貞方 渉
電話番号 0 5 2 - 9 5 5 - 5 7 2 0
(URL <http://www.dds.co.jp>)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 2 月 9 日に公表した平成 27 年 12 月期通期の業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成 27 年 12 月期通期業績予想 (平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)

[連結]

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,185	59	216	214	6 円 35 銭
今回修正予想 (B)	805	△452	△388	△366	
増減額 (B-A)	△380	△511	△604	△580	
増減率 (%)	△32.1%	—	—	—	
前期実績 (平成 26 年 12 月期)	611	△339	△192	△100	

[個別]

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,185	81	238	235	6 円 98 銭
今回修正予想 (B)	805	△431	△351	△329	
増減額 (B-A)	△380	△512	△589	△564	
増減率 (%)	△32.1%	—	—	—	
前期実績 (平成 26 年 12 月期)	591	△337	△245	△153	

2. 業績予想の修正理由

平成 27 年 8 月 31 日に発表いたしました、国内初のマイクロソフト「Surface 3」対応 指紋認証ユニットである UBF-Hello について、大口の販売交渉が続いております。現在交渉中の数量全てを今期売上とするためには在庫が足りず増産が必要となりますが、見込で生産をすると在庫リスクを

負うため、販売数量が確定してから追加生産し、来年出荷するという方針といたしました。

この結果、今季の販売交渉の動向にかかわらず、今期当該製品の売上の見込が減少する見通しとなりました。このことから、当初の想定よりも通期売上高の見込が減少する見通しとなりました。

販管費につきましても、新事業の本格稼働に伴う市場での認知度向上や啓蒙活動に積極的な投資の結果、主に広告宣伝費、人件費、旅費交通費、地代家賃などが増加いたしました。また、まもなく発表するFIDO関連事業の新製品開発などの先行投資により外注費、開発費、支払報酬も増加しております。

特に新製品開発に伴う支払報酬および外注費が想定以上に増加したため、新事業における増加費用と比較し、新製品開発の増加分の比率が大幅に大きくなっております。

また、営業外収益として計上しているSynaptics社からの売上連動収益についても、先方の開示資料や市場予測等から出荷量を予測し、収益金額を算定しておりましたが、この9月に受領した金額を含め、想定よりも少ない金額で推移していること、現在の為替の状況から為替差損が発生する可能性もふまえ、営業外収益、営業外費用の見込についても見直しを行いました。

これらの結果として売上高、営業利益、経常利益および当期純利益とも前回発表予想を下回るが見込まれるため通期の業績予想を修正いたします。

また、連結業績予想の修正については、個別業績予想の修正の影響によるものであります。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであります。実際の業績等は様々な要因により上記数値と異なる場合があります。

以 上